

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NcB_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日神パレステージ海老名	階数	地上14F
建設地	海老名市中央3丁目1389-3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	316 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年2月 予定	評価の実施日	2011年7月6日
敷地面積	1,362 m ²	作成者	(株)ラカンデザイン研究所
建築面積	593 m ²	確認日	2011年7月6日
延床面積	6,096 m ²	確認者	(株)倅栄設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値

建築物の取組み

上記+ 以外のオンサイト手法

上記+ オフサイト手法

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR3 敷地外環境

LR2 資源・マテリアル

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.9

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
総合 集合住宅の特性より、専用部の住空間の環境負荷への低減を配慮し、共用部分の省エネを考慮し、敷地状況を踏まえた環境保全のための配棟計画及び外構計画を進めた。	その他 建設工事においては、廃棄物削減を図ると共にリサイクルを考慮した分別を徹底して行うこととした。
Q1 室内環境 温熱への配慮として断熱効果を高める為の断熱材処理及びペアガラスの採用を行い、隣戸間の遮音効果を高める躯体厚さを確保し、空気中の汚染物質となる材料を使わずに、かつ、換気処理の徹底を考慮した。	Q2 サービス性能 建築物の耐震性の確保を図り、外装仕上においてタイル使用による維持管理の低減を行い、住戸内の更新対応を考慮した間取計画を行い、設備の機器・配管の維持管理及び更新の容易さを確保を考慮した。
LR1 エネルギー 建築物としての温熱対策として、室内部となる部分の外壁面を全面断熱処理を行うことによる空調負荷の低減を図り、使用する設備機器について、効率の良い省エネタイプの採用を計画した。	LR2 資源・マテリアル 雨水については、浸透処理設備を設置し外部に極力排水することなく処理を行い、各材料の使用に当たっては、汚染物質を含まないものを使用する計画とした。
	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地状況を踏まえ、極力空地を確保し、緑化による環境維持とアメニティの確保に努め、建築物の配色においては、近隣状況を配慮した計画とした。
	LR3 敷地外環境 敷地の状況を踏まえ、出来るだけ空地を確保し、緑化を行い、居住者用の駐車場・駐輪場の確保により、道路での交通障害となる駐車などを回避し、廃棄物については、生ごみ処理機設置によるごみ量の減量化を行う計画とした。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L:** Load (建築物の環境負荷), **LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), **BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい